

リーディングDXスクール事業【実践事例】

さいたま市立大東小学校(埼玉県)

【取組内容①】 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実につながるクラウドの活用

共同編集でみんなで学ぶ ・クラウド上で共同編集を行い、協働的に学習を取り組んだ。



①学級会で意見を共有



②調べたことを共有



③思考ツールで整理



④白地図にまとめる

①意見を出し合う時間を5分で済ませることができる。

なぜその意見を提案したか、賛成したか、反対したかの理由も記録として残る。

司会が指名→発表→黒板に記録の時間を大幅に削減できる。

普段意見を言えない児童も含め、全員が意見表明できる。

②調べたことを出し合う時間が短くなり、結果として児童が活動する時間が増える。

児童は他者参照しながら、自分にはない考えに触れ、学びを深めることができる。

③紙の付箋とは異なり、それぞれの児童の手元で作業できるため、効率的に作業できる。

紙では難しかった、グループ間の共有もクラウド上では簡単に行うことができる。

④それぞれ調べたことを模造紙にまとめる時間がないので、効率的に作業できる。

紙の付箋とは異なり、1つのシートにたくさんの情報をまとめることができる。

作業中であっても、他の人が調べたことを手元のタブレットでいつでも確認できる。